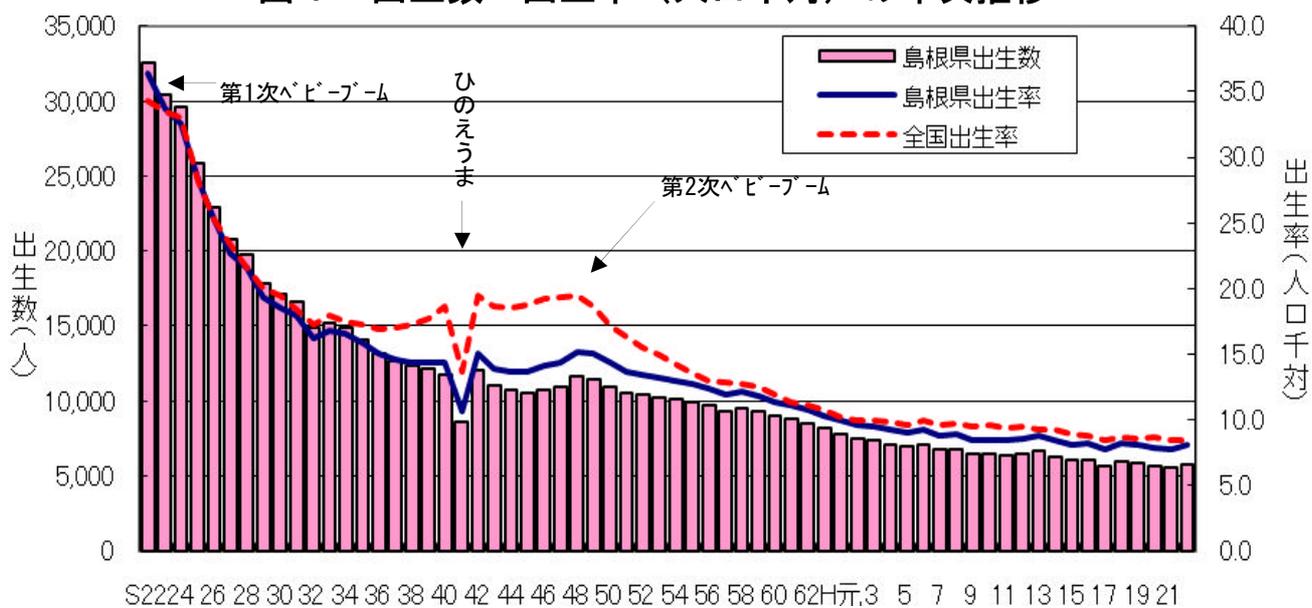


2 出生

(1) 出生数・出生率

平成 22 年の出生数は 5,756 人で、前年の 5,601 人から 155 人増加し、出生率（人口千対）は 8.1（全国第 30 位）で、前年の 7.8 を 0.3 上回った。出生数、出生率ともに昭和 46～49 年の第 2 次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図 1）。

図 1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移



出生数を母の年齢（5 歳階級）別にみると、15～19 歳、45～49 歳では前年より減少したものの、そのほかの年齢層で増加した（表 2）。

表 2 母の年齢（5 歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	20 年－19 年	21 年－20 年	22 年－21 年
総数	5,914	5,685	5,601	5,756	△ 229	△ 84	155
～14 歳	—	—	—	—	—	—	—
15～19	70	79	87	71	9	8	△ 16
20～24	791	682	687	691	△ 109	5	4
25～29	1,971	1,807	1,769	1,795	△ 164	△ 38	26
30～34	2,101	2,026	1,973	1,986	△ 75	△ 53	13
35～39	852	976	968	1,049	124	△ 8	81
40～44	125	113	112	162	△ 12	△ 1	50
45～49	4	2	5	2	△ 2	3	△ 3
50 歳以上	—	—	—	—	—	—	—

出生順位別にみると、平成 22 年はいずれも前年より増加した（表 3）。

表 3 出生順位別にみた出生数の年次推移

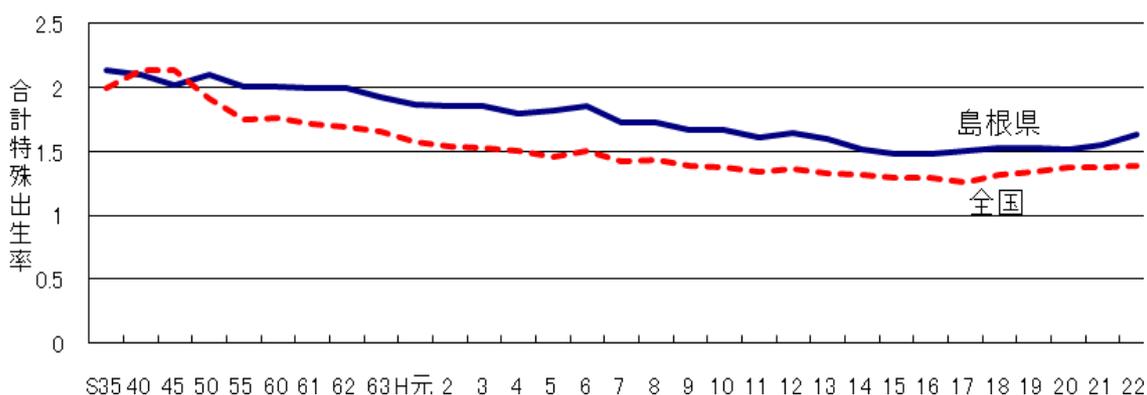
出生順位	出生数				対前年増減		
	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	20 年－19 年	21 年－20 年	22 年－21 年
総数	5,914	5,685	5,601	5,756	△ 229	△ 84	155
第 1 子	2,576	2,351	2,373	2,408	△ 225	22	35
第 2 子	2,211	2,130	2,095	2,139	△ 81	△ 35	44
第 3 子以上	1,127	1,204	1,133	1,209	77	△ 71	76

(2) 合計特殊出生率

平成 22 年の合計特殊出生率は 1.63 であった。全国と比較すると、昭和 50 年以降一貫して島根県が上回っており、平成 22 年の順位は全国第 2 位である(図 2)。

なお、合計特殊出生率の算定の基礎となる年齢 5 歳階級別女子人口については、平成 17 年などの国勢調査年は日本人人口を、その他の年は総務省推計人口（総人口）を使用しているため、数値の比較においては注意を要する（平成 22 年は国勢調査年であるが、国勢調査に基づく確定数が出ていないため総務省推計人口を使用）。

図 2 合計特殊出生率の年次推移



年齢（5歳階級）別合計特殊出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。平成22年は25～44歳の各階級で上昇し、15～24歳の各階級が低下した（図3）。

図3 合計特殊出生率の年次推移【年齢階級別内訳】

